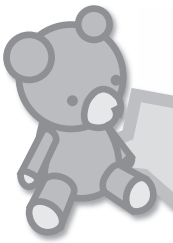
Welcome to a Library

ようこそ図書館へ

第20号

2016年４月
津市図書館



おもな内容

Ｐ１～Ｐ２…tupera tupera（ツペラツペラ）ワークショップ
Ｐ３……もったいないばあさんのおはなし会
Ｐ４……レファレンス事例集
Ｐ５……知ろう私たちの郷土

▼「はなげがいっぽんでている」のキーワードで亀山さんが作った“つ うぐいすとしょかんちゃん”。はなげが「つ」になっています。

津市図書館ホームページ
http://www.library.city.tsu.mie.jp

tupera tupera（ツペラツペラ）ワークショップ

うぐいす図書館では平成28年１月９日（土）に、tupera tuperaの亀山達矢さんによるワークショップ～自分だけのしろくまのパンツをつくろう～を開催しました。

tupera tuperaは亀山達矢さんと中川敦子さんのユニットで、今回のワークショップの元になった人気絵本『しろくまのパンツ』をはじめ、おしゃれで楽しい絵本をたくさん出版されています。また、イラスト、雑貨、ワークショップ、テレビ番組のアートディレクションの担当など多方面で活躍されており、お子さんから大人まで幅広い年齢層をとりこにしています。

ご本人による読み聞かせ

三重県出身という亀山さんは前日から会場作りにきてくださいました。大きなしろくまや看板を作ったり、会場にパンツを飾りつけたりと、tupera tuperaの世界感たっぷりの会場ができあがりました。そして今回は「キーワード」を作ろう！ということになり、「パンツにレースがついている」「けんかがつよい」「しろくまピエロ」などたくさんのキーワードをみんなで考え、亀山さんが作った“しろくまキーワードボックス”に詰め込みました。

ワークショップ当日はご本人の読み聞かせから始まりました。『やさいさん』ではみんなで声を会わせて「すっぽん！すっぽん！」、『うんこしりとり』では「うんこ！うんこ！」と、とても盛り上がりました。また、新しい本を初公開していただくなど、嬉しいサプライズもありました。

そしていよいよしろくまを作ります。まず「しろくまはうす」から真っ白の本体を取り出し、キーワードを引きます。パンツの色を選び、紙、布、毛糸、カラーテープやペンなど会場にあるたくさんの材料を使って、子どもも大人もみんなが思い思いにしろくまを作りました。

最後は全員で自分の作ったしろくまを発表しました。個性的なしろくまたちに、会場からは歓声や拍手が起こりました。また終了後のサイン会では時間をかけておひとりおひとりにサインを書いていただき、参加者のみなさんともたくさん交流をもっていただくことができました。

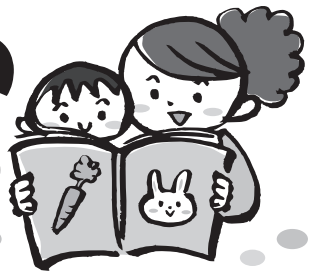
亀山さんの作ったしろくまはうぐいす図書館のおはなしコーナーで見ることができます。

たくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。

ワークショップの様子

もったいないばあさんのおはなし会

絵本作家 真珠まりこさん講演会



久居ふるさと文学館では、平成27年12月13日（日）に、絵本作家　真珠まりこさんによる講演会「もったいないばあさんのおはなし会」を開催しました。

真珠さんは、「もったいないばあさん」シリーズをはじめ、「おべんとうバス」「なないろどうわ」「イカになあれ」「おでんのゆ」など愛らしい絵本をたくさん出されている絵本作家です。

講演会は、まず「もったいないばあさん」の絵本の読み聞かせから始まりました。絵本のキャラクター「もったいないばあさん」は様々なメディアに掲載されており、世界で初めての「宇宙からの読み聞かせ」として、国際宇宙ステーションから野口宇宙飛行士による「もったいないばあさん」の読み聞かせがされた事でも有名です。

真珠さんから多くの絵本を読んでいただき、それぞれの絵本にまつわるエピソードを披露していただきました。ご自身の育児経験談や、地球上で起きている問題と私たちの暮らしとのつながりを伝える「もったいないばあさんのワールドレポート展」を通じて「もったいない」という言葉から始まる、命や環境を大切にしようと思う気持ちを、みんなで育てようと話されました。今、世界で起こっていることは自分たちとは無関係ではなく、自分たちの暮らしとつながっており、今の日本の生活を見つめなおすキーワードとして「もったいない」は、とっても深い言葉なのだと、皆さん、改めて考えさせられたのではないでしょうか。

絵本を読んだ後は、「もったいないばあさん」の絵描き唄にあわせ、みんなで思い思いの「もったいないばあさん」を楽しんで描き、中には何個も描いたりする子どもも。普段は見ることのできない絵本作家の筆の運びを、まじかに見た子ども達は興味津々、描きあがると歓声が上がりました。

「もったいないばあさんまほうのくにへ」では、「まほうのくに」の雰囲気を出すため、真珠さんが、もったいないばあさん役を、文学館職員がマジマジさん役で群読という形でおこないました。みんな「まほうのくに」へ行けたのでしょうか？

最後は、真珠さんの手ほどきを受け、みんなで「もったいないばあさん音頭」を踊りました。１回目は、みんなドキドキ、でも２回目は踊りを楽しめたようすで、自然と拍手が沸いてみんな笑顔の中、講演会は終了。

終了後も、真珠さんが描いた絵を熱心に見ている子どもの姿が見られ、賑わいをみせました。

講演会への多数のご参加ありがとうございました。

真珠さんの絵本は、久居ふるさと文学館をはじめ市内各図書館でも読むことができます。今年の盆踊りに「もったいないばあさん音頭」はいかが？？

レファレンス事例集

Q ミーシャについて、その作品も知りたい。

A ミーシャはアルフォンス・ミュシャのこと。
久居ふるさと文学館にはミュシャに関する（資料）所蔵が無いため市内の所蔵館を紹介しました。

「ミュシャ作品集」
ミュシャ/画　千足　伸行/著　東京美術　津
「もっと知りたいミュシャ」
千足　伸行/著　東京美術　きらめき
「アルフォンス・ミュシャ作品集」
アルフォンス・ミュシャ/画　三省堂書店　安濃
「アルフォンス　ミュシャ」
島田　紀夫/著　六耀社　津・うぐいす

『トルコ軍艦エルトゥールル号の海難』

オメル・エルトゥール／著・山本　雅男、植月　恵一郎・久保　洋子／訳　彩流社

困難の波頭を乗り越え、日本に到達したオスマン乗組員たちの勇気ある行動。
遭難者の生命を救うべく、最善を尽くした日本（和歌山県串本町大島）の海の男たちの勇気。
1890年に起きた、トルコ軍艦「エルトゥールル号」の悲劇をもとに描く歴史物語。
トルコと日本の友好のきっかけとなった海難事故の物語を是非読んでください。

『ピーティ』　ベン・マイケルセン／作　千葉茂樹／訳　すずき出版

ピーティは脳性まひのため、重い知的障害で考える能力もないと、施設で長い間扱われてきました。しかし、彼の感情は豊かで、人生の大半が辛いことばかりだったのに、自分の人生に喜びを感じることができます。カルビンやトレビーとの出会い、そして別れ…。涙なしでは読めない、感動の物語です。

図書館員のひ・と・り・ご・と

【本が見つかった！！】

「本をまだ返してもらっていないんだけど・・・」よく図書館にくる小学生に尋ねました。「返したよ」「ううん。まだ返してもらってないよ」図書館で顔を見るたびにそんなことばが交わされました。

あるとき、本の内容を伝えると、「わかった！わかった！家にあるかも！」「そう？あったらすぐに返してね？」

数日後、嬉しそうに「本、あった〜！！！」

スタッフ全員で「よかったぁ！」

しばらく沈黙・・・

こちらが「本は？」と聞くと「・・・また持ってきます」

嬉しくて報告だけにきてくれたんですね。

その後、無事に返却していただきました。

郷土史の原典⑲

知ろう私たちの郷土

〈能〉と郷土の深い関わり

川上　裕子

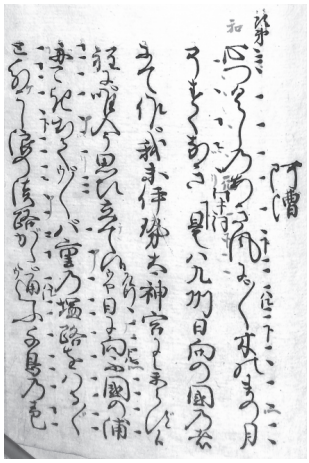
現在、歌舞伎や落語などの日本の伝統文化が“クールジャパン”として海外から注目されている。そこで今回はその中から、ユネスコの無形文化遺産に登録され海外公演も行われている〈能〉について、郷土とどのように関わってきたのかについて軽く触れつつ見てみようと思う。

能とは、能面や専用の装束を身に付けた演者が囃子（太鼓や笛の音）と共に独特のリズムで謡い舞う芸能で、元々は平安時代の猿楽（滑稽な雑芸を始め歌舞、寸劇、曲芸を含む芸能）であった。そこから劇の側面を充実させたのが能で、室町時代初期頃に大和結崎座（能を演じる一座。後の観世流）の観阿弥・世阿弥親子により大成した。観阿弥は大和（現奈良県）山田の出身という説が現在有力とされている。しかし一説には、伊賀国浅宇田（現伊賀市守野）の出身であり、その妻（世阿弥の母）は同じく伊賀国小波多（現名張市小波田）の領主の養女であったという。また、世阿弥の息子の観世元雅は伊勢安濃津の地で没したといわれている。

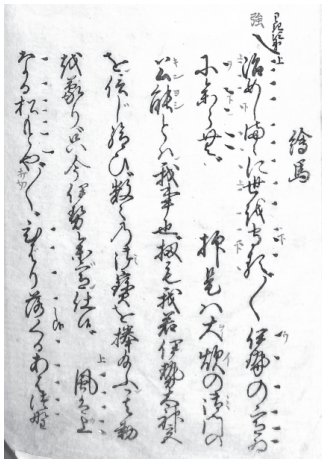
さて、室町から戦国時代にかけて、能は将軍や武将に好まれ、特に豊臣秀吉は自らも曲を作り舞う程好んだという。江戸時代になると、幕府の庇護を受けながら活動し、また、大名らは城内や屋敷内に能舞台を造って能の観賞会を開くようになった。伊勢国藩主の藤堂家も代々の藩主が好み、特に第四代藩主高睦はかなりの愛好家で第五代将軍綱吉の前で舞ったことがあるという逸話も残っている。また、名張藤堂家邸にも能舞台があったといい、所有していた能狂言面46面は後に地元の神社に奉納された。

一方で、藩士や民衆の間にも広まり、中には趣味・教養として学ぶ者も現れた。津では御厨観音（津観音）の二月朔日の鶴の子渡しに伊勢の勝田大夫が能舞を演じた。また当番町の子どもは神事開始前に田村（能の曲の一つ）を、祝賀の間に小謡を数番謡うのが慣例であったという。

こうした流れもあり、能の曲（謡曲）の詞章と抑揚などをまとめて記した「謡本（謡曲本）」が多く出版されるようになった。当館の特殊コレクションである「稲垣文庫」と「橋本文庫」にも『謡曲本』（請求番号　稲75－１～18）や『〔観世流〕謡本（同　橋76－52～82）を始めとして、数曲ずつ一冊にまとめたシリーズや『高砂』『軒端梅』（同　稲76－84・85）のように一曲で一冊のものまで様々な謡本が所蔵されている。能の曲数は現在約240曲あるといわれており、その中で郷土に関わる曲としては阿漕平次の話を基にした「阿漕」や「御裳濯」「絵馬」など数曲が存在する。（写真①②）



写真①　稲76－20『〔謡曲集〕』より「阿漕」冒頭）



写真②　橋76－52『〔観世流〕謡本』より「絵馬」冒頭）

現在も伊勢や名張を始め、県内各地で保存会や地元の能のサークルが活動している。また、毎年薪能（主に夜間に野外で行なわれる能）が行なわれる地域もあり、〈能〉が文化の一つとして郷土と関わっている様子が伺えるだろう。

主な参考文献

梅原三千・西田重嗣著『津市史』第一・三巻（津市　昭和34・36年）、西野春雄・羽田昶編『新編　能狂言事典』（平凡社　平成23年新版）、中相作著・名張市役所版権『名張市史』（臨川書店　昭和62年）、名張市史編さん委員会編『おきつもの今昔-市制五十周年記念』（名張市役所　平成16年）、伊勢民俗学会著『津市の民俗』（三重フィールド会　昭和58年）、矢野憲一・五十鈴塾編『三重県謎解き散歩』（新人物社　平成24年）、原田香織著『能狂言の文化史』（世界思想社　平成21年）（他）

休館日・開館時間などのご案内

※下記の休館日のほかに特別整理期間（年１回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ
http://www.library.city.tsu.mie.jp/

携帯電話QRコード

館　　名	開館時間	休館日（全館共通）
津図書館 ☎ 229-3321 〒514-8611　西丸之内 23-1　津リージョンプラザ内	平日 ９：00 ～ 19：00 土・日曜日、祝・休日 ９：00 ～ 17：００	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始（12 月 28 日～１月４日）
久居ふるさと文学館 ☎ 254-0011 〒514-1136　久居東鷹跡町 2-3	平日 ９：00 ～ 18：00 土・日曜日、祝・休日 ９：00 ～ 17：00	
ポルタひさいふれあい図書室 ☎ 254-0464 〒514-1118　久居新町 3006　ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10：00 ～ 21：00 土・日曜日、祝・休日 10：00 ～ 18：00	
河芸図書館 ☎ 245-5300 〒510-0314　河芸町浜田 782	10：00 ～ 18：00	
芸濃図書館 ☎ 265-6004 〒514-2211　芸濃町椋本 6824　津市芸濃総合文化センター内	９：00 ～ 17：00	
美里図書館 ☎ 279-8122 〒514-2113　美里町三郷 51-3　津市美里文化センター内	９：00 ～ 17：00	
安濃図書館 ☎ 268-5822 〒514-2326　安濃町東観音寺 418　津市サンヒルズ安濃内	10：00 ～ 18：00	
きらめき図書館 ☎ 292-4191 〒514-0314　香良洲町 2167　津市サンデルタ香良洲内	９：００～ 17：00 （７・８月の平日は 18：00 まで）	
一志図書館 ☎ 295-0116 〒515-2521　一志町井関 1792　とことめの里一志内	10：00 ～ 18：00 （７・８月の平日は 19：00 まで）	
うぐいす図書館 ☎ 262-5000 〒515-2602　白山町二本木 1139-2　津市白山総合文化センター内	平日 10：00 ～ 18：00 土・日曜日、祝・休日 ９：00 ～ 17：00	
美杉図書室 ☎ 272-8092 〒515-3421　美杉町八知 5580-2　美杉総合文化センター内	９：00 ～ 17：00	

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ　第20号
発行日／平成28年４月１日　編集及び発行／津市教育委員会　津市津図書館
三重県津市西丸之内23番１号津リージョンプラザ内　☎(059)229-3321